

【全体会】

記念講演①

「大切にしたい学童期の放課後の質、そして学童保育」

ー秘密基地・駄菓子屋・近所のおばちゃんー

吉葉 研司さん（名古屋学芸大学）

1. 人生を「生活の質」から考えてみる

「あー楽しかったなあ」「また明日もやってみたいな」と思える体験が「生活の質」となって、生きることへの希望となる

2. 「子ども期の生活の質」で大切にしたい「暮らし」の3つの要素

(1) 安心感・安全感が実感できる日常

(2) 自己が発揮でき、充実感を実感できる日常

(3) 未知の出会いからつながることができる協同的な世界の広がり

・・・ここで(2)(3)を生みだしていくのが、「遊び」が豊かに広がる日々の暮らし

3. 遊べない子どもたち、遊ばない子どもたち

祖父母世代・父母世代・そして現在の子どもの遊びの質は確実に変化している

その変化が子どもの成長にどのような影響を与えているか

このような子ども期の遊びの喪失は人類史上初めての経験である

これは「学力」よりももしかしたら深刻かもしれない

4. 遊べばいいのか・・・その質を考える

「もうあそんでいいの？」という学童の子どもの声

ミハエル・エンデが残した言葉

一人ひとり賀が充実し、違った仲間と豊かに出会える

「学童期」の「遊び」を保障するということ

・・・小さな冒険・子どもだけの秘密・ちょっとした悪さ・小さな怪我を経験しながら

大きな怪我を回避する・・・大人はハラハラ子どもはワクワク、これが安心してできない

5. 子どもの生活の質と学童保育

遊ぶ場・生活の場・異年齢がつながる場があるということ

これらは当たり前のことではなく、実は高度な専門性が必要なこと

それが、学童保育！

6. “子ども子どもによる子どものための暮らしを日常に”

リンカーンになぞって・・・子ども目線の民主主義を子どもたちに手渡す

Playful Life of the Child by the Child for the Child！

こんな社会を皆さんとつくっていきましょう